

総合的な学習の時間 - 9 (第3学年) 仲間分けしたり序列化したりして質問項目を決定する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 地域のよさを伝えよう		
2 単元の目標 地域のよさを調べたり伝えたりする活動を通して、地域の自然事象・社会事象への理解や地域で生きる人々の努力や工夫を知り、そのよさを発信していこうとする。		
3 評価規準 【学習方法】 ・地域の現状を把握し、各自が追究する課題を設定している。 ・必要に応じて方法を選択し、地域に関する情報を収集・分析している。 【自分自身】 ・地域のよさに気づき、その価値を他の地域に伝えていこうとする。 【他者や社会との関わり】 ・地域に住む人や異なる地域の人と、よさや違いを交流している。		
4 教材 生徒は、1学年で地域の事業所を訪問して地域のよさや問題を聞き取り、2学年では、職場体験を通して、より深く地域について学習してきた。そこで、3学年では、具体的に地域を活性化する手立てを考え、できることを実践していくこととする。これまでの身の回りの人たちからの聞き取り活動を発展させ、3学年の修学旅行で東京を訪れる機会を利用して外から見た鳥取県について調査活動をしたり、その結果を新聞にまとめたりしながら、地域のよさや課題を明確にし、地域の活性化について考え行動する単元を構成した。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開(全45時間)		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (5)	地域のよさや課題を再検討しよう。 ・1,2年生での学習を振り返る。 ・振り返りながら取り出した情報を整理し、地域のよさや問題点を浮き彫りにする。	・学習の記録を読み返し、学習活動を振り返りながら、地域のよさと課題を情報として取り出す。
第一次 (23)	鳥取県認知度調査をしよう。 ・ウェビング図を用いたり、カード整理をしたりしてアンケート用紙を作成する。(本時3/23) ・グループで作成したアンケートを発表し合い、全体でまとめる。 修学旅行を活用し、東京で鳥取県認知度調査を実施する。 アンケート結果を集計分析して発表する。 ・グループで質問項目を分担して集計分析する。 ・集計分析した結果をパワーポイントにまとめて発表する。 認知度調査の結果を新聞にまとめよう。	・ウェビング図で鳥取に対する発想を広げ、カードによって仲間分けしながら、アンケート項目を検討していく。 ・結果を考察することを視野に入れて、アンケート回答者に関する質問項目を検討する。 ・必要に応じてアンケートの仕方なども練習する。 ・アンケートなどの調査結果を集計し、表やグラフなどを使って表現する。
第三次 (17)	自分の課題を追究し、町のためになることを実現していこう。(個人追究) 町のよさを発信し、みんなでできることを実現していこう。(学年追究)	・自分の考えと全体の考えを統合するために、学年全体での意見交換の場を用意する。
(2)本時の学習 鳥取県の認知度を調査するアンケート用紙を作成するために、ウェビング図やカードを用いて考えを広げたりまとめたりして質問項目を考える。		
鳥取県に対するイメージをウェビング図を使って広げていく。 個人で考えた質問項目を付箋紙に書き、模造紙に貼ってグループ分けする。 グループ分けした質問項目を序列化して、アンケートの質問項目を検討する。 アンケートの質問項目を定めた理由を学習シートに書き表す。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(3)において、「自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。」と示している。

地域を活性化するアイデアを考えることを目指して取り組んでいる探究活動においては、まず地域のことを知ることが重要である。それを本やインターネットの情報から得るのではなく、人と出会い、人と直接関わる体験活動から得ることが大切である。それにより、地域に関する知識だけでなく、地域の人々の思いも知ることができる。さらには、地域の人との対話を通して、一人一人の生徒のコミュニケーションの力も向上すると考えるからである。

鳥取県認知度アンケートは、1、2年生の時の地域の人への聞き取り活動とは異なり、これまでの活動を通して感じ取ってきた地域のよさや課題を、新たな視点からとらえ直す場面である。そのためにも、アンケートの目的を明確にし、質問項目を検討していくことが大切であると考えた。そのことにより、アンケートに対する取組も前向きとなり、他の地域の人との関わりも積極的になることが期待できる。様々な人と積極的に関わり、地域のよさや課題を考えていく生徒の成長を期待した。

【言語活動の充実の工夫】 ウェビングとカードで質問項目を検討する

アンケートを作成するには、アンケートのねらいに沿って質問を考えることが重要である。鳥取県の認知度アンケートを作成するに当たって、次のような手順を進める。

改めて自分たちが住む鳥取県とはどのような県なのかを考えてみるため、まず、ウェビング図を用いて、鳥取県から連想することを書き出し、鳥取県の特徴を考える。

鳥取県の認知度を知るといった目的に沿って、個人で質問項目を考えて付箋紙に書き出す。質問項目を書いた付箋紙を模造紙に貼り、グループで整理し、まとめる。

整理された質問項目を重要な順に並べ替え、アンケート用紙に記す事項を考える。

各グループの意見を出し合い、全体としてのアンケートの質問項目を決定する。

その結果、アンケート用紙の質問事項として「鳥取県を漢字で書くことはできますか」、中国地方の地図を載せて「鳥取県の位置がわかりますか。地図の中から選び、記号で教えてください」、「鳥取県の特産物にはどのようなものがあるか知っていますか」、「鳥取県の観光地で知っている場所はありますか」などが決まった。

質問内容を考える一方で、アンケート結果を集計し、結果を分析する際には、回答者についても尋ねる必要があることが明らかになってきた。そこで、回答者の年齢、性別、鳥取県に行ったことがあるか、知人で鳥取県出身の人がいるかなどについても質問することになった。また、調査地点を記録することにした。

このように、アンケートの質問項目を先の手順で検討し作成することは、アンケートの目的やねらいを再確認するとともに、鳥取県の姿を改めて見つめ直すことにもつながった。また、アンケートの質問項目を検討するだけでなく、その後の分析を視野に入れて考えることで、回答者の特性も情報として収集する必要があるということが分かり、実際の情報収集の場面をイメージすることにもつながった。

